

# 水俣学通信

第 73 号  
2023. 8. 1

Newsletter from the Open Research Center for Minamata Studies



水俣今昔シリーズ19「チン引き込み線」1972年と2014年（水俣市昭和町）

## 目 次

追悼：			
「濱元ハルエさん」……………	2	「市民の意見が届くのか？（仮称）肥薩ウインドファームの影響評価準備書の縦覧」……………	6
	永野隆文		中地重晴
報告：			
「水俣病第一次訴訟判決50年、国・県の水俣病事件への対応を問う！」……………	3	第20期 公開講座のご案内・第22期 水俣学講義……………	7
	山下善寛		
「水俣学アーカイブと韓国4・16民主市民教育院との交差」……………	4	水俣学研究センター日録・編集後記……………	8
	井上ゆかり		
「日本窒素鏡工場跡訪問記」……………	5		
	花田昌宣		

## 《追悼》

## 濱元ハルエさん

エコネットみなまた 永野隆文  
(水俣学研究センター客員研究員)



2023年5月31日、濱元ハルエさんが82歳で亡くなりました。ハルエさんは、水俣病患者の濱元二徳さんの連れ合いで、自身も被害を受けていました。ハルエさんが二徳さんと一緒になったのは1964年24歳の時。私のハルエさんの印象は、物語の筋書きとは関係は全くないのですが、パール・バックの『大地』に出てくる非常に寡黙で、勤勉であった阿蘭を思うのです。初対面の時、農業をするハルエさんを見て、阿蘭もこんな体躯でせつせと野良仕事をして、朝陽と共に起きだし夜は夜なべをして、と想像したものでした。

私は高校1年の時に濱元二徳さんの講演を聞き、この社会に欠けているもの、必要なものは何かを学びました。私の生き方に影響を与えた方だと思っています。その方のお連れ合いの最期に立ち会いました。

## 容体急変

2023年5月31日朝、H医療院から成年後見人の私に、ハルエさんの容体が急変したので直ぐに来れないかと電話がありました。2週間前から誤嚥性肺炎を起こしていましたが回復しているということだったのでびっくりしました。駆け付けたところ、ハルエさんの呼吸はありましたが、呼びかけには反応なく、10時過ぎ、大きく息を吸い込んだと思ったら、次に吐くことはありませんでした。何が起きたのかわかり、隣の詰所に駆け込みました。それから30分以上心臓マッサージをしていただきましたが蘇ることはありませんでした。新型コロナウイルス感染が落ち着き、H医療院も面会制限を緩和したので、その日の午後、もう一人の成年後見人の濱元さんの甥、節さんたちと面会予定でしたが、かないませんでした。夫の二徳さんは、2011年からH医療院で療養中で、ハルエさんは昨年秋から二徳さんと同室で過ごされていました。

## 在宅で暮らすということ

入所に至るまでは、在宅で暮らすことを第一の目標としました。身体的なことも含め、在宅では無理ではないかということも多々ありましたが、グリーンコープの介護事業所や支援者の力でギリギリまで住み慣れた家で暮らすことができました。ハルエさんは世間の目を気にし、ヘルパーさんの世話になることを避けようとした時期もありましたが、介護保険と友人たちの力が両輪となりとてもうまく回っていたと思います。ハルエさんの食欲がなく、何とか食べさせようとして好物のいなりずしを作って持って行ったことがあります。「酢が足らん!」と言われました。まだ元気が残っていると安心したものでした。

二徳さんは重度の水俣病患者ですが、彼も可能な限り在宅で過ごしました。それは、ハルエさんの献身的な助けがあったからだと思います。ハルエさんは2009年夏にY病院に入院したのですが、自分のことより二徳さんのことが心配で夜中に何度も脱出を試みて、ついには病院が音を上げて、退去通告を受けたことも思い出されます。二徳さんの入所後は、大好きな演歌を

大きな音で聞いたり、畑仕事に精出すことも増えました。

## 差別の中で

ハルエさんの暮らしの中で忘れてはならない人、二徳さんの姉フミヨさんの存在があります。フミヨさんは、1973年3月大石環境庁長官に次のように語っています。(『出月私記』新曜社、1989年、227-228Pより抜粋し、一部編集)

「水俣病が悪かぞつ言うです。市民は。

患者になったり、私のように親を死なせたりした人は、どんなに苦しんで行きますか。患者だけいじめております。私の父親、母親が死んだときはですね、伝染病と言うてですね。家の前を通るとき、生徒がみんな口をおさえてですね、行き帰りしてました。妹は、『みんながお前の親は奇病だろうと言う』と私に言っていました。『好きでなったっじゃなかつぞ』と私は思います。私は妹が学校に行かないと言わないかと思うて、それが一番心配でした。それで、本当にこんなに言われても、薬もないし、親も死んで、私は行き場がなかったです。」

フミヨさんは苦勞して濱元家を支えてきて、そこに嫁いだハルエさんがいて、いろんなことを教えようとされたと思います。友人たちでよく話していたことの一つに、新婚時代のハルエさんと義姉フミヨさんとのやり取りがあります。ハルエさんが朝少し遅くまで寝ていると、隣に住んでいるフミヨさんが、ガラス戸をどンドン叩いて「もう陽が昇っているのに畑に出ないのか!」と何度か言われたという事。農業も、フミヨさんの指導で上達されたのではないかと思います。



左から、フミヨさん、ハルエさん、二徳さん(1988年)

水俣病事件初期のころ、奇病だ、伝染病だと言われ、さらに認定患者として補償金を勝ち取った時代、濱元さんたちは激しい差別の中にいました。その中でハルエさんは何を思って生きてきたのか、詳しく話を聞くこともなく逝ってしまわれました。

二徳さんたちと、ストックホルムや、アジア、アフリカにも行かれました。インドから帰ってきてからは、ぜいたくはせず、インドの子どもたちに品物を贈ることに熱心になっていたこともありました。

日々、ひっそりと二徳さんを支えたハルエさんの法名は「釈春照」。ハルエさんの人生を表している、いいお名前です!ハルエさんが精魂込めていた甘夏みかん園は、今エコネットみなまたで管理しています。レモンや青島みかん、伊予柑、キンカンの苗を植えました。それぞれ3年後くらいには収穫できたらいいなと思います。お供えしたいと思います。

## 《報告》

## 水俣病第一次訴訟判決50年、 国・県の水俣病事件への対応を問う！

水俣病被害市民の会  
(水俣学研究センター客員研究員) 山下善寛

### 式典後の西村環境大臣、熊本県知事との懇談

慰霊式後、環境省水俣病情報センターで、患者・被害者団体と、環境大臣・熊本県知事・水俣市長らとの懇談の場が設けられた。患者・被害者団体からの参加は、死亡や高齢化に伴う会員数の減少や団体の解散等でわずか7団体のみであった(水俣病被害市民の会から坂本みゆきさん・筆者が参加)。

各参加団体の自己紹介のあと、水俣病患者・支援者連絡会から、「特措法にもとづく健康調査を求める要望書」を西村環境大臣に手渡し、早急に健康調査を実施するよう求めた。(写真)



西村環境大臣(右)に「要望書」を渡した筆者(写真:吉田 護氏)

その後患者団体、水俣病互助会の岩本代表や水俣病被害者互助会の佐藤英樹代表から、水俣病問題に真摯に向き合い対処して欲しい旨の要望と、家族の施設利用についての意見が出された。認定義務付け訴訟を行っている緒方博文さんは、国・熊本県知事に対し水俣病事件に対する責任を認めるよう迫った。水俣病被害市民の会からは、チッソが患者団体と結んだ「補償協定」と、特措法に規定された環境調査の実施を訴えた。不知火患者会からは、健康調査の実施を要望。胎児性小児性患者・家族支援者の会は、高齢化に伴う新たな対応を求める「要望書」を提出。患者連合・獅子島の会は、離島対策の必要性を要望した。

これらの意見・要望を受け、例年なら環境大臣がそれなりの回答、意見をのべていたが今年の西村環境大臣はすべての質問・要望・意見に答えず、「持ち帰り検討したい」と述べるにとどまった。これでは何の為の懇談会なのかとの不信感だけが残り、終了間際には各団体から大臣はきちんと答えろ！との罵声があがった。

4月30日、水俣市公民館において、水俣病第一次訴訟判決から50年、「水俣病事件の教訓と課題について考える」集会が開催された。長年水俣病患者を診察し健康調査にかかわってきた藤野紀氏(水俣協立病院名誉院長)は、「医師として水俣病に向き合った50年」と題し、国は患者認定に複数症状の組み合わせを求める基準を設け、患者救済を狭くしたと批判。

谷洋一氏(水俣病被害者互助会事務局)は、「健康被害の実態と認定制度の乖離を問う」と題し、補償協定書締結から50年が経過し認定患者の高齢化や社会制度の変化等で、補償協定書の見直しが必要と訴えた。高林秀明氏(熊本学園大学社会福祉学部教授)は「天草市倉岳町浦地区住民実態調査から見えてくるもの」と題して、学生と共に行った社会学的手法で水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法(以下、特措法)の救済対象外の倉岳町浦地区の聞き取り調査について報告を行い、参加者120名が水俣病の教訓と課題に耳を傾けた。

### 5月1日の水俣市主催の水俣病慰霊式に参加して

以前は乙女塚での慰霊祭に参加し、水俣病犠牲者慰霊式(水俣市主催)には参加していなかった。しかし4~5年前から事前に乙女塚での慰霊祭に参加し、途中で抜けて水俣市主催の慰霊式に参加していた。今年は環境大臣への質問を修正していたら時間が無くなり、乙女塚の慰霊祭参加が後回しになってしまった。

今年の水俣病犠牲者慰霊式は、コロナ禍がある程度収まり通常規模で行われたが、一般市民の参加は少なかった。水俣病患者や被害者団体の参加も、死亡や高齢化で確実に減少してきている。水俣病被害市民の会からは筆者と坂本龍虹さんの二人が参加した。

坂本龍虹さんは肺がんの告知を受け闘病中で、酸素ボンベ持参での参加には強い決意が感じられた。しかし参列の西村環境大臣・蒲島熊本県知事・チッソ社長の祈りの言葉には全く誠意や責任が感じられず、龍虹さんも不信感を述べておられた。せめてもの救いは患者・遺族代表の松崎政司さん、児童生徒代表の塚田さん(袋小)の祈りの言葉と、水俣病が公式確認から67年が経過してもなお解決していない水俣病事件の現実を全国(全世界)に発信されたことくらいか？

## 《報告》

## 水俣学アーカイブと韓国4・16民主市民教育院との交差

水俣学研究センター研究員 井上 ゆかり

## はじめに

2014年4月に韓国全羅南道珍島郡の観梅島沖で転覆・沈没し299人の犠牲者を出したセウォル号事件を覚えておられるだろうか。

韓国・明知大学校教授だった金翼漢先生が2017年6月から1年間サバティカルで熊本に滞在された。情報ガバナンスの側面を考慮しながら災害記録の現状を探索し、日韓両国の現代民主主義の性格、そして社会の民主的文化の性格を比較分析する目的での来日であった。金先生は、セウォル号事件の被害者家族に寄り添い、追跡調査を行い、この沈没事件のアーカイブ文書＝記念館を作る構想を深化させようと言われていた。センター主催の若手研究セミナーや公開講座、水俣病事件研究交流集会などに積極的に参加され、水俣病事件と比較分析されるなかで、水俣学がアーカイブを活かした教育実践により積極的に取り組む必要があると話されていた。

その後、筆者を研究代表とする科学研究費助成事業基盤研究(B)「公害教育実践に利する水俣学アーカイブの構築とその外延」が採択され、取り組みははじめた。ここでは、今年4月13日から16日にセウォル号事件を伝える4・16民主市民教育院の視察、研究交流を行ったことを報告したい。

## 4・16民主市民教育院

ソウルから車で1時間半のところ、セウォル号惨事で亡くなった生徒が通っていた京畿道安山市檀園高校はあった。学校周辺には通学路に季節毎に亡くなった生徒を忘れないという絵が掲げられ、近くの公園には当時親たちがデモで使っていた椅子などがモニュメントとして飾られ、被害学生家族が暮らす町内にはアパートを改装して造られた記録管理民間団体4・16記憶貯蔵所に展示室がある(写真1)。町全体がこの事件で亡くなった250人の生徒と11人の教師とともに暮らしている印象だ。

ここから車で15分ほど離れた安山教育支援庁別館の地下、1階と2階に「檀園高校4・16記憶教室」展示室と事務所、資料保管庫、資料整理室があった(写真2)。安山教育支援庁はその隣のビルにある。圧巻なのは、高



写真1 記録管理民間団体4・16記憶貯蔵所(写真:水俣学研究センター)

校の教室10室と教務室1室を黒板、机や椅子、教室の窓枠、掲示物、カーテンなどそのまま移築し、生徒1人ひとりが使っていたノートや写真が展示され、机にあるQRコードを携帯で開くと、その生徒の生きてきた軌跡を辿ることができ、家族が書いた手紙などを読むことで、当該の学生が何を目指していたかを知ることができる点だ。



写真2 檀園高校4・16記憶教室の外観(写真:水俣学研究センター)

資料室は二重扉のなかにあり、温度湿度防虫対策がとられ、文書箱には名前が書かれ、紙資料だけでなく制服やその生徒が描いた絵などが整理され配架されていた。名前で分類する理由を尋ねると、記録管理民間団体4・16記憶貯蔵所時代から金先生とともに携わり現在4・16民主市民教育院のチームリーダーをされているLee, Eun hwaさんは「被害者の生きていた息遣いを伝えたいから」と言われた。また、亡くなった学生の父親が所長を務め訪れる学生に教訓を伝えている。こうした取り組みが、沈みゆく船のただなかで「生きたかった」とメッセージを残した学生や教員の声を今訪れる人々に伝えているのだろう。

## アーカイブを教育に活かす取り組み

この「檀園高校4・16記憶教室」は2021年に国家指定記録物に指定された。今回の訪問では、4・16民主市民教育院の所長やチームリーダー、金先生、教育庁の部長や研究員らと研究交流を行い、先述した水俣学研究センターの研究成果を井上が発表し意見交換を行った。

教育庁も関わり、韓国全土の小学生から高校生が研修に訪れ、この事件から“安全”を考えるプログラムや水泳教室なども組み合わせ、自分たちが危機に対応できるような教育プログラムを作っている。

水俣学アーカイブを教育に活かす取り組みはこうした交差の上に構築していこうと考えている。今後、地元の方々にご教授いただきながら地道につくっていききたい。

今年度の水俣市で開催する公開講座には、金先生に韓国からおいでいただき、その取り組みについてお話しいただく予定である。

《報告》

## 日本窒素鏡工場跡訪問記

熊本学園大学社会福祉学部 花田 昌 宣  
(水俣学研究センター研究員)

チッソの創業の地である八代市鏡の日本窒素鏡工場跡、現大東肥料株式会社鏡工場を水俣学研究センターのメンバーで、さる6月22日に訪問した。

いったん、水俣学現地研究センターに集合し、そこからワゴン車で鏡町に向かった。参加したのは、元チッソの労働者と水俣学研究センターの研究員ら6名。

この訪問は鹿児島大学の中川亜紀治先生にご紹介いただき実現したものだ。中川先生は水俣学研究センターの若手研究セミナーに参加されて、かねてから元チッソ労働者の山下善寛さんに鏡工場跡訪問を提案されており、中川先生が種々の調整をしてくださり当日の案内もしていただいた。中川先生は企業史や産業史を専門とされているわけではなく理学部の天文学の研究者で、地元が鏡町とのこと。

さて、鏡工場では、大東肥料の中村元信社長が迎えてくれ、工場を案内するとともに、社史などを丁寧に説明して下さった。工場の前には鏡川が流れていて、小魚が沢山泳いでいた。かつては、貨物の積み降ろしをしていたとのこと川端にはそれらしい水運の景色が見て取れた。

チッソ株式会社社史『風雪の100年』によると、1914(大正3)年11月、日本窒素鏡工場が完成し、日本窒素白川発電所からの送電を受け、カーバイド、石灰窒素、硫酸の製造を開始したとある。1919年には、水俣工場と合わせて、国内生産の60%の生産量を記録する。1926年には5万坪の敷地面積があったとされ、1927年には、化学肥料の製造技術の革新に伴い鏡工場での製造を停止している。

ところで、この鏡工場での肥料製造事業自体は、明治に遡り、タカジアスターゼで知られる高峰讓吉がイギリス留学中に肥料生産技術を学んだことに淵源を有し、渋沢栄一らが事業化して日産化学として発展したもの。日産化学は、1958年7月11日、希望退職者を募集し鏡工場での製造を停止した。その上で大阪に本社を置く大東化学が1962年鏡工場を開設した。現在は、宮崎県やベトナムにも工場を有している。

さて、この鏡工場には、かつては鹿児島本線有佐駅から工場専用の引込み線があったとされるが、1983(昭和58)年ぐらいに廃止され現在は無い。

われわれが気になっていた工場の建屋は、創業当時(日本窒素鏡工場時代)の構造をそのまま残しているとのことであった。川に面して積み出し口が作られていたようだが今は封鎖されている。中村社長の案内で建屋の内外を見てみると、確かに、いまはもう解体されて

しまったチッソの水俣の旧工場の建屋とそっくり。現在倉庫として使用されている工場建屋の中を見てみるとチッソの旧工場にいてのではないかと錯覚させるほど似ている。川のそばに位置していることなどを加味すれば、同一資本で同様の生産活動をしていたのであるから、当然のことであろう。水俣市のチッソにも引込み線があり、また梅戸湾に面して積み出し港もあり、工場内とは鉄道でつながっていた。



補強され現在も使用されている工場内部(左)  
建設当時のレンガがところどころ見える(右)  
(写真:水俣学研究センター)

日窒の旧工場の記録と照らし合わせて鏡工場を詳細に検討してみれば新たな事実が発見されるかもしれない。

さて、たまたま通りかかったのだが、工場の近くを流れる鏡川は、住宅街の中を流れており小さな橋が架かっている。橋名を見てみると「小千代橋」とあった。日窒の創業者野口遵の愛人であった小千代さんを偲んで命名されたという話は以前から聞いていたし社史にも登場する。新しく作り直されているが、名前はそのまま。



鏡川の小千代橋(写真:水俣学研究センター)

今回は、中川先生が提供してくれた機会を活用して工場見学をさせていただいたが、現場を踏んだことによって改めて資料類を見直してチッソ労働運動史研究の成果を踏まえて調査研究しなおしてみたいと思う。

## 《報告》

## 市民の意見が届くのか? (仮称) 肥薩ウインドファームの影響評価準備書の縦覧

水俣学研究センター長  
(熊本学園大学社会福祉学部) 中地重晴

### はじめに

水俣、伊佐、出水市の山間部に、電源開発㈱が計画している(仮称)肥薩ウインドファームの環境影響評価手続きが着々と進んでいる。環境影響評価準備書が公表、縦覧され、市民からの意見募集があった。「ちょっと待った風力発電!水俣の会」の集計では、全国から1,140通の意見が提出された。

この間の経過と公表された環境影響評価準備書の内容に関する問題点をまとめた。

### 環境影響評価準備書の縦覧とは

2021年7月の方法書に関する知事意見が提出されてから約2年、水俣の山間部での風向風力調査等環境調査を終え、5月10日付で、環境影響評価(環境アセスメント)の結果報告書の原案である環境影響評価準備書が熊本県知事、鹿児島県知事、水俣市長、伊佐市長、出水市長に提出された。同時に、6月9日までの間、水俣市内等14か所で、縦覧された。さらに、電源開発㈱のホームページでも、電子縦覧ができた。準備書に関する意見の公募があり、縦覧場所の意見書箱に入れるか、2週間後の6月26日消印有効で、郵送するかの方法により、市民の意見を提出することができた。

市民向けに縦覧された準備書では、水道水源地、動物・植物の種の保護の観点から、一部情報について、公開版として墨消し等を行っているが、一方的な断り書きが最初に掲載されていた。動植物の希少種の場所については、不法な採取を防ぐために、隠匿する必要があるかもしれないが、水道水源地については、住民生活に関わることであり、悪影響については、正確に伝えるべきであり、墨消しについては、情報公開が不十分として、問題にすべきではないかと思った。

### 事業者主催の説明会

準備書の内容についての説明会が水俣、伊佐、出水の3か所で開催された。水俣では、5月18日(木)にもやい館ホールで開催され、私は少し遅れて参加した。80名くらいの市民の方の参加があった。電源開発㈱の担当者が、環境影響調査の結果、4,300kwを30機建設する計画に変更した建設計画の概要を説明した。参加者から多くの疑問や建設に反対の意見が出されたが、時間切れで、すべての質問に答えきれずに閉会した。

### 環境影響評価準備書の問題点

風力発電で、真っ先に問題になる騒音については、準備書では、「方法書段階で、施設稼働時に騒音が大

きになると考えられたので、西側3か所、東側1か所で風車の設置をとりやめた。21号機の位置を変更し、石飛地区の直近の住宅との距離を506mから、754m確保し、騒音を低減化した。そのため、WN3(東側北・石飛)の冬季夜間のみ指針値を超える可能性はあるが、他は基準値を下回る。」と記述している。4機の風車を取りやめ、1機は位置をずらし、環境に配慮したかのような書きぶりだが、方法書の計画段階で、住宅に近接しているのは、自明であり、初めから取りやめることができたのを、自慢げに記述していること自体、見識を疑いたくなる。風車から2km以内に住宅が110軒もあることが明らかになった。

また、低周波音についても、施設が稼働すれば増加分として、G特性音圧レベル68~75dBと予測しているが、その根拠は示されておらず、現況より8~26dB増加するが、問題はないと結論づけている。音圧レベルの増加の推計については、稼働している4,300kwの風車で実測した値を用いるべきであり、不十分としか言えない。

河川の濁りについては、現地調査した16地点で、平時は環境基準以下、降雨時は最大540mg/Lになるため、環境保全措置として、風車ごとに沈砂池を造成し、堆積物の除去等を適切に行うことで、対処するとしているが、水源の場所については墨消しされて分からず、評価のしようがない。

112種類の動物、132種の植物が確認され、造成等の施工による一時的な影響として、生息環境の減少、消失が指摘されている。また、コウモリ類や渡り鳥については、風車への接触による影響があるかは、事後調査を実施するとしているが、問題があるのであれば、建設しないという選択をすべきだ。

造成工事に伴って、42万㎡の残土が発生し、搬出するために、膨大に増加する大型トラックの通行で、住民の生活に影響が出るのは確実である。

変電所の位置は明記されているが、送電線・鉄塔の位置は明記されておらず、どのように建設工事を行うかは不明のまま、計画そのものの全体像が明らかにされておらず、準備書としては、不十分だと考える。

今後、水俣市及び熊本県知事、熊本県環境影響審査会の意見が提出され、環境影響評価書がまとめられる。引き続き、動向を注視していきたいと思う。

## 第20期 公開講座のご案内

### 「次世代に事実（教訓）をどう伝えるのか」

今年、水俣病第一次訴訟判決から50年を迎えました。水俣病被害者の補償、救済問題は解決したとは言えません。水俣病の教訓を学ぼうとしても、被害当事者が高齢化し、話を聞くことも難しくなってきました。同様のことが、戦争被害や他の公害被害でも、当事者が高齢化し、起こったことの真相をどのように語り継いでいくのかが、課題になっています。

沖縄や広島、長崎では、高校生などが施設を案内する取り組み、若い語り部の養成が進められてきています。

また、関東大震災や満蒙開拓団などの経験、忘れ去られた事実を掘り起こし、事件を語り継ぐ取り組みも行われています。こうした取り組みの経験を学び、改めて、水俣病の教訓をどう語り継いでいくのか、考えていきたいと思えます。

開講日：2023年10月3日～31日  
毎週火曜日

時間：18：30～20：30

場所：エコネットみなまた  
(住所：熊本県水俣市南福寺60)

開催方法：ZOOMを用いたハイブリッド方式

対象：どなたでも参加できます

#### 公開講座予定

- ①10月3日 「『来民開拓団の真相』に学びながら、『開拓慰霊祭のころ』を受け継ぐ子どもたち～部落差別の現実に学び、反差別のなかまづくりへ～」  
森山 英治（熊本県人権教育研究協議会 顧問）
- ②10月10日 「人間の尊厳を取り戻す闘い  
—水俣病事件 父からの伝言—」  
川本愛一郎（宥リハシップあい 代表取締役  
水俣市立水俣病資料館 語り部）
- ③10月17日 「次世代に長崎の被爆体験をどう伝えるか」  
林田 光弘（長崎大学RECNA特任研究員）
- ④10月24日 「『ウトロで生きる ウトロで出会う』  
～差別と歴史問題を乗り越えた力～」  
金 秀煥（ウトロ平和祈念館 副館長）
- ⑤10月31日 「セウォル号事件の記憶（仮）」  
金 翼漢（韓国・明知大学 名誉教授 ㈱文化製作所可能性 代表理事）

#### □お問合せ・会場参加申込み

水俣学現地研究センター  
TEL 0966-63-5030 FAX 0966-83-8883  
E-mail m-genchi@kumagaku.ac.jp



#### □オンライン参加申込み

<https://forms.gle/4pTJXTA5M76nLwuX9> 申込みフォーム

## ● 第22期 水俣学講義案内 ●

2023年9月21日～2024年1月25日までの毎週木曜日（冬季一斉休業などを除く）  
時間：13：00～14：30 教室：調整中

本年度も、ライブ中継をいたします。変更など随時ホームページに掲載いたします。  
<https://gkbn.kumagaku.ac.jp/minamata/>

#### 講師予定（敬称略）

- ①9月21日 花田 昌宣（水俣学研究センター）
- ②9月28日 桑原 史成（日本写真家協会 会員）
- ③10月5日 宮本 憲一（大阪市立大学 名誉教授）
- ④10月12日 田中 泰雄（弁護士）
- ⑤10月19日 坂本しのぶ（水俣病互助会）
- ⑥10月26日 小林 光  
(元環境省事務次官 東京大学先端科学技術研究センター 研究顧問)
- ⑦11月9日 宮田 求（北日本新聞 編集委員）
- ⑧11月16日 杉本 裕明  
(ジャーナリスト NPO法人未来舎 代表理事)
- ⑨11月30日 梅田 卓治  
(水俣・芦北公害研究サークル 会長)
- ⑩12月7日 井上ゆかり（水俣学研究センター）
- ⑪12月14日 伊東紀美代（NPO法人水俣病協働センター）  
山下 善寛  
(水俣の暮らしを守るみんなの会 代表)
- ⑫12月21日 田尻 雅美（水俣学研究センター）
- 2024年
- ⑬1月11日 DVD上映
- ⑭1月18日 中地 重晴（水俣学研究センター）
- ⑮1月25日 花田 昌宣（水俣学研究センター）

お問い合わせ：水俣学研究センター

TEL 096-364-8913 FAX 096-364-5320 E-mail : minamata@kumagaku.ac.jp  
ホームページ： <https://gkbn.kumagaku.ac.jp/minamata/>

## 水俣学研究センター日録

### 4月

- 8日 立命館土曜講座「障害者権利条約の初回審査と総括所見」石川 准・静岡県立大学 名誉教授「障害者権利委員会総括所見はなにを求めているか」(オンライン)
- 10日 順天堂大学関係者来校 (大学)
- 11日 熊本日日新聞社取材受入れ (大学)
- 13-16日 科研「公害教育実践に利する水俣学アーカイブの構築とその外延」韓国調査 (韓国)
- 17日 西日本新聞社取材受入れ (大学)
- 22日 下野新聞社 飯田氏取材受入れ (水俣)  
胎児性水俣病世代の被害に関するWG (オンライン)
- 25日 下野新聞社 飯田氏取材受入れ (大学)
- 26日 みんなの会運営委員会 (水俣)  
水俣写真家の眼プロジェクト検討会 (オンライン)
- 28日 若かった患者の会 (水俣)
- 29日 東京水俣病を告発する会・桑原氏受入 (水俣)
- 30日 風力発電予定地見学：中地 (水俣)  
水俣病公式確認から67年！新潟水俣病公表から58年！第一次訴訟判決から50年。「水俣病事件の教訓と課題について考える集い」(水俣)

### 5月

- 1日 水俣病慰霊祭 (水俣)
- 3日 科学研究費助成事業「胎児性・小児性水俣病患者の自立生活と主体形成への回路」調査 (水俣)
- 8日 風力発電準備書対応打合せ (水俣)
- 9日 水俣病行政不服審査請求検討会 (水俣)
- 11日 差別禁止法研究会「ハンセン病に係る偏見差別的解消のための施策検討会 結果の要点と具体化に向けた課題」内田博文氏 (研究会代表／上記施策検討会有識者会議委員長) (オンライン)
- 12日 熊本日日新聞社取材受入れ (大学)
- 13日 石けん運動ネットワーク総会 (オンライン)  
胎児性水俣病世代の被害に関するWG (大阪・オンライン)
- 14日 風力発電説明会打合せ・学習会 (水俣)
- 18日 電源開発風力発電計画説明会 (水俣)
- 20-21日 西日本社会学会 (熊本大学)
- 22日 風力発電準備対応打合せ (水俣)

- 24日 水俣学研究センター第39回定例研究会 (大学)  
みんなの会例会 (水俣)
- 30日 日本記者クラブ賞特別賞授賞式・高峰 (東京)

### 6月

- 2日 水俣病被害者互助会認定義務付け訴訟控訴審 (福岡)
- 3日 胎児性水俣病世代の被害に関するWG (大学)
- 7日 朝日大学講演「水俣病事件と水俣学の試み、(補)熊本地震：被災者の視点から」・花田 (岐阜)
- 8日 熊本日日新聞社取材受入れ (大学)
- 13日 水俣病行政不服審査請求検討会 (水俣)
- 17日 PARC自由学校講演打合せ (オンライン)  
胎児性水俣病世代の被害に関するWG (大阪・オンライン)
- 21日 PARC自由学校2023ハイブリッド読書ゼミ「新自由主義と闘った知の巨人、宇沢弘文—『人間のための経済学』はどう構想されたのか」「宇沢弘文を知る①数学から経済学そしてアメリカへ—その思想の原点と軌跡」(オンライン)
- 22日 日産鏡工場跡見学 (八代)
- 23日 令和5年度科学研究費助成事業研究代表者説明会 (大学)
- 24、25日 福祉環境学入門水俣現地研修 (水俣)
- 28日 2023年度水俣学研究センター総会・第40回定例研究会 (大学)  
みんなの会総会 (水俣)
- 30日 日本記者クラブ賞特別賞受賞講演・高峰 (東京)  
同時代史学会打合せ (オンライン)  
国環研 堀口先生 ISTA21打合せ (オンライン)
- 隔週火曜：健康・医療・福祉相談 (水俣)
- その他：水俣病研究会資料貸し出しと返却受入れ、取材、部落問題、豊島関連、差別禁止法研究会、香害、Tウオッチ、震災アスベスト関連、オリーブ基金、ダイオキシン関係、環境問題、熊本地震・豪雨に関する調査、グリーンコープ学習会・取材協力も行いました。

### 編集後記

原田先生の命日、親水護岸のお地藏さんに赤いバラがあった。忘れることができない大切な人々。どうぞ先を急がないでください。(M・T)

## 水俣学通信

第73号 2023.8.1

編集／熊本学園大学水俣学研究センター 発行人／中地 重晴  
連絡先／〒862-8680 熊本市中央区大江2-5-1 熊本学園大学水俣学研究センター  
Tel：096-364-8913(ダイヤルイン) Fax：096-364-5320  
https://gkbn.kumagaku.ac.jp/minamata E-mail:minamata@kumagaku.ac.jp  
印刷／ホープ印刷株式会社